



府中地区保護司会だより

第39号

発行責任者 府中地区保護司会
会長 谷 合 隆 一

府中市郷土の森・修景池の大賀蓮



七月二日早朝、蓮を観る会があるというので出かけた。花期はやや過ぎていたが、霧雨の中で咲く花はひときわ鮮やかであった。
(撮影 広報部・杉浦 渉)

府中地区保護司会は今年度創立二十周年を迎えました。高野律雄府中市長よりメッセージを頂きましたので、ここに掲載させていただきます。

創立二十周年を祝して



府中市長 高野律雄

このたび、府中地区保護司会が、めでたく創立二十周年を迎えられましたことを、心からお喜び申しあげます。

平成八年に創立されて以来、二十年の長きにわたり、社会奉仕の精神のもと、真摯に犯罪予防、更生保護活動に取り組まれ、これまで多大な功績を残されてこられました。これもひとえに、谷合会長をはじめ、歴代の役員並びに会員皆様のご尽力の賜物でございます。改めて深く敬意と感謝の意を表する次第でございます。

さて、私も保護司の一員でございますが、昨今のめまぐるしい社会情勢やライフスタイルの変化とともに、犯罪や非行が多様化・凶悪化しておりますことは、誠に憂慮すべき状況と感じております。こうしたなかで、皆様の活動は大変重要な役割を担っておりまして、今後ますます大きな期待を寄せているところでございます。

本市といたしましても、市民皆様が安心して暮らせるまちづくりに邁進してまいりますので、どうか皆様方におかれましては、変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、創立二十周年を迎えられた府中地区保護司会の今後ますますのご発展と、会員皆様方のご健勝ご活躍をご祈念申しあげまして、お祝いのごとばといたします。

着任のご挨拶



東京保護観察所立川支部
支部長 村木 康弘

本年四月一日付で東京保護観察所立川支部長を拝命いたしました。

立川支部での勤務は初めてとなりますが、ここ多摩の地は、私が生まれ育った故郷であり、東京・多摩の安全・安心のために日夜、ご尽力をいただいている更生保護関係者の皆様、関係機関・団体の皆様への感謝を胸に、改めて一緒に仕事をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

さて近年、再犯・再非行の防止が安全・安心な社会の構築に不可欠であるとして、政府一丸となって様々な施策が打ち出されています。

更生保護においても、平成二十年に基本法である更生保護法が施行されるとともに各種制度の充実が進められ、昨年度は社会貢献活動が本格的に実施され、また本年六月に刑の一部執行猶予制度も始まりました。

こうした動きは、再犯・再非行の

防止に向けた更生保護に対する社会の期待の表れであるとともに、更生保護に課せられた責任もこれまで以上に重くなっていることが感じられ、より一層身が引き締まる思いがいたします。

保護観察所といたしましては、引き続き保護司の皆様のご理解とご協力を得て、ともに社会の期待に応え、また重責を果たすことができるよう努めてまいりたいと考えております。

そして、多摩の更生保護のために何ができるか、多摩の安全・安心のためにするべきことは何か、ということに常に念頭に置き、はなはだ微力ではありますが、立川支部管内における様々な課題にも全力で取り組み所存でありますので、今後とも皆様の更なるご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ごあいさつ



東京保護観察所立川支部
主任保護観察官 樺澤 貴子

本年度、府中地区を担当することになりました保護観察官の樺澤です。

どうぞよろしくお願いたします。府中地区の担当は十三年ぶり二度目となりますが、府中市の地域の状況もこの十三年の間に大きく変化してきていると思います。定期駐在、保護司会主催の実務研修会等の機会をとらえて、保護司の皆様と積極的に情報交換や、処遇協議を行い、連携を密にして、保護観察や生活環境調整等の処遇を行っていきたく思います。

さて、今年府中地区保護司会は創立二十周年の節目を迎えるとのこと大変おめでとうございます。この間、平成十二年から学校との連携に取り組んでおられ、毎年市立中学校の生活指導主任会との情報交換会等交流を深め、近年では情報連携から行動連携へと連携のあり方も進化させており、保護司会の積極的な取り組みは、様々な場面で確かな成果を挙げ

ていると感じております。

本年七月一日の「社会を明るくする運動」街頭広報活動では、市立中学校十一校全校から中学生約五十名が参加し、府中市推進委員会の協賛団体の方々と一緒に、市民の皆さんに、広報資料の配布と活動への理解と協力を呼びかけていただきました。多感な年頃の中学生が、犯罪予防活動や、更生保護という活動を知り、理解を深め、非行や犯罪に陥った人の社会復帰についてもそれぞれの立場でできることを考えるきっかけとなる有意義な活動になったのではないかと思います。今後一層の活動の広がりに期待と希望が膨らみます。

保護司さんの活動も多岐にわたり、ご多忙のことと存じますが、くれぐれも健康に留意いただき、引き続き活躍いただきますようお願いいたします。

府中地区保護司会組織

平成二十七年より現体制で活動を始め、一年が過ぎました。今年度は創立二十周年を迎え、節目の年となりました。更に力を合わせて活動を続けてまいります。

役員(理事)

会長 谷合 隆一
副会長 高野 佳子

会計

加藤 茂
西谷 照代
西腰美恵子
松本 俊雄

相談役

各部長(理事)
総務部長 朝倉 俊夫
研修部長 伊藤 敏春
地域活動部長 山本 裕章

理事

広報部長 大沢美保子
須藤 光忠
久村 秀子

監事

市川 一徳
原田 勝彦
小澤 秀敏
筒井 孝敏
杉浦 渉

学校との連携委員会 委員長

様々な視点から考える

「日新小学校道徳授業参観の記」

学校との連携委員会 委員長 杉浦 渉

授業の概要

- 平成二十八年六月三十日(木)
- 府中市立日新小学校(湊 仁校長)
- 六年一組(二十九名)堀米昭子先生
- 六年二組(二十八名)長坂光一郎先生
- 六年三組(三十名) 甲斐和彦先生
- 参観者 府中地区保護司会十名

三クラスそれぞれに

六年生の三クラス同時の参観でした。共通する主題は、「自由・責任・規則の尊重・善悪の判断」でしたが、扱う読み物資料は三クラス三様でそれぞれに興味深い授業が展開されました。



一組は、大森貝塚を発見した米国人のモースが書き残した百四十年前の実直な日本人の様子をもとに、現代の私たちが顧みるというものです。いわば自分たちを外の目で眺めてみて何を思うかという授業です。



二組は、中世ヨーロッパを舞台としたわがままな王子のエピソード。地位と権力を有する者が自由をはき違えるかどうかという自由になるか、その教訓からあらためて自由には振る舞うことの意味を考える授業でした。



三組は、「修学旅行の夜」というタイトルから想像できるように、消灯後のおしゃべりや枕投げを先生に注意された班長の「わたし」の心を話し合う展開。八月の日光林間学校を控えてタイムリーな授業でした。

いずれの授業でも、自らの自由は他者のそれと視野に入れないと成り立たないことを考えさせられました。



府中警察だより

府中警察署生活安全課少年第一係

統括係長 齋藤 則夫

皆様、日頃より警察活動に対するご理解とご協力を深く感謝いたします。今回は、本年上半期の府中市内における少年非行の傾向について触れたいと思います。

警視庁全体での犯罪少年(十四歳以上)の検挙人員は減少傾向ですが、触法少年(十四歳未満)の検挙人員が増加傾向にあります。府中市内でも同様の傾向にあり、特に万引き事件については、犯罪少年の検挙が三名、触法少年の検挙は九名、内小学生が七名と中学生を上回る状況となっております。

府中署管内では、万引きを繰り返す少年の児童相談所への通告が増加しています。学校関係者も危機感を持ち、小学校のセーフティー教室における万引き防止に向けた講話も実施し再発防止に努めています。

ニュース等で話題となっていたスマートフォン用ゲームアプリの「ポケモンGO」が日本でも配信が開始、子どもたちの夏休み時期と重なり、モンスターを探すために深夜散歩、中高生も増加し、警察は事件事故防止のため、補導活動・交通取締り等を強化中であります。

街頭広報活動

地域活動部 奈良崎芳恵

去る七月一日に法務省の『社会を明るくする運動』の一環で、府中も地域活動部が中心となり街頭広報活動を行いました。

犯罪や非行のない安心・安全な明るい地域社会の実現のための啓発活動で、多くの協賛団体の他、何校かの中学校から代表者が参加し毎年行っている活動です。嬉しいことに今回初めて、十一校全ての中学校から参加してくれました。昨年、あいにくの雨で中学生の参加がなかったこともあり、梅雨時でお天気が心配でしたが、蒸し暑いなか無事開催することができました。

中学校毎に保護司が二名付き添い府中フォーリス前を中心にそれぞれ

6回 明るくする運動

直りを支える地域のチカラ



更生保護女性会の皆さんと

指定された場所に移動し、のほりを掲げながら市民に声をかけチラシ配布を行いました。
中学生から差し出されたチラシを無視して素通りしていく方もいて、社明運動に対する興味、関心がまだ薄く、市民の皆さんに理解が進んでいないことを感じました。ただこうした実態に触れながらも、一生懸命に取り組んでくれた中学生の皆さんにとって、良い経験になってくれると嬉しです。
「継続は力なり」との言葉を信じ、



市内11校の中学生とともに

これからもより良い社会を築いていけるようさまざまな機会を通じてアピールするとともに、地道に頑張ろうとの思いを新たにしました。
明るい地域社会を目指すには皆様のご協力が不可欠です。ご協力をいただいた関係機関の方々に感謝申し上げますとともに、理解の輪を広げていけるよう、今後ともどうかよろしくお願いいたします。本当にありがとうございます。

中学生の声

《街頭広報活動への感想》



七月一日、社明運動のたすきをかけた中学生たちにチラシ配布の感想を聞いてみました。(二人の分担任、紙袋一つで、中には社明のチラシとティッシュが三十個ずつ入っている。)

◆「自分から積極的に出ていくと受け取ってもらえ、うれしかった」 (十中生)

◆「ちょっと営業スマイルで頑張ってみました」 (二中生)

◆「皆にもらってもらうのは、かなり難しい」 (二中生)

◆「初めての参加で、いい経験だった。全部配れてよかった」 (七中生)

◆「知らない人に配るのは、予想以上に大変だとわかった」 (六中生)

◆「ビラ配りのアルバイトの人の気持ちがよくわかった。『がんばって下さい』と言ってくれる優しい人もいた」 (九中生)

第6 社会を明るくする運動

犯罪や非行を防止し、立ち

推進大会

地域活動部 古川 耕央

平成二十八年七月十二日、梅雨の最中ということで曇天ながら蒸し暑い陽気の中、府中グリーンプラザけやきホールに於いて第六十六回社会を明るくする運動府中市推進大会が、高野律雄府中市長をはじめ多くの来賓のご出席と三〇〇人を超える聴衆のご参加のもと開催されました。

今年も女性デュオPaix2（ペペ）さんにお越しいただいてのコンサートが行われました。

ペペのお二人は、メジャーデビューされた翌年の平成十四年三月より、全国の矯正施設でプリズンコンサートと称した公演を繰り返し「刑務所のアイドル」と呼ばれており、その



谷合会長あいさつ

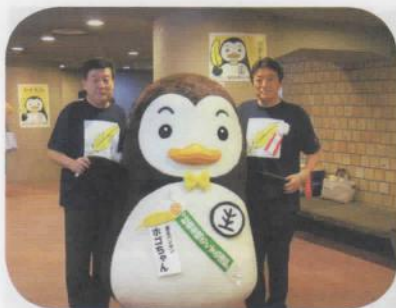
回数は現在までに四〇〇回を超えています。また平成二十六年からは保護司、矯正支援官としてもご活躍されています。

コンサートはオリジナル曲のほか、命や家族を連想させるカバー曲の合間にお二人がこれまでのプリズンコンサートを通して経験された様々な話があり、来場された聴衆の中には目頭を押さえている方もいました。

十六時の終了予定を十五分ほど過ぎてコンサートはエンディングを迎え、谷合会長からお二人に花束を贈呈したのち、高野副会長による閉会の挨拶をもって第六十六回社会を明るくする運動推進大会は幕を閉じました。



Paix²とホゴちゃん



谷合会長 高野市長
ホゴちゃん



来場者も一緒に



- ◆「初めは緊張したが、皆受け取ってくれてうれしかった」（四中生）
- ◆「初めての体験でしたが、とても楽しかった」（五中生）
- ◆「一人で二袋配った生徒もいた」（浅間中生）
- ◆「すごく達成感があった」（八中生）
- ◆森岡耕平先生（府中市立中学校校長会会長、三中校長）
三中からは、二年生と三年生が参加しました。一人一人が力を出して、こうしたことができたのは生徒たちにとって貴重な経験になると思います。

雨の東京少年鑑別所
総務部 山上 稔

六月十三日、あいにくの雨空の中、定刻前には、四十一名全員が集合したものの、バスの到着を待つこと十分。今日一日を暗示するかのような、ハラハラドキドキのスタートとなりました。

練馬区にある東京少年鑑別所では、府中にご実家があるという中村庶務課長のお出迎えを受け、会議室にて、向野地域非行防止調整官から、施設の沿革、業務、収容鑑別の流れや最近の収容状況とその分析など、スライドを使いながら、丁寧に説明していただきました。

昨年六月に施行された少年鑑別所法に、鑑別、観護処遇とともに、地域援助が本来の業務として、新たに



規定されま
した。
これまで
にも、東京
少年鑑別所
では、少年
や保護者に
対する相談
を行ってき
ましたが、
地域援助業
務の明文化
を契機に、

併設されている法務少年支援センター「ねりま青少年心理相談室」は、専門職による相談に加え地域連携、情報提供や学校、保護者への助言など「地域とつながり、地域につなげる」ことをめざして、より活発な地域援助に取り組んでいます。

説明後、二グループに分かれて、施設内を見学しましたが、途中面会者の来所で、慌てて移動するなど、ここでもハラハラ。昼食後は渋滞による予定変更の連続で、東京タワー見学も、短縮して帰路につきました。日頃の少年との関わりを象徴するかのように、東京少年鑑別所の研修は、ハラハラドキドキの一日となりました。



研修部の交流会スタート
調布・狛江地区保護司会 & 府中地区保護司会



鴨志田会長
谷合会長
伊藤研修部長

調布・狛江地区保護司会（鴨志田守久会長）と府中地区保護司会（谷合隆一会長）は以前属していた北多摩南保護司会から独立し、本年四月、共に創立二十周年を迎えた。これを機に去る五月二十四日、研修部（伊藤敏春部長）による第一回の交流会が府中市立ふれあい会館で開かれた。異なる保護司会がこうした交流の場を持ち、対話と連携を深めていくという試みは、今までなかった新しいもので、双方で多くの参加者を数えた（調布・狛江から十五名、府中からは広報部も含め十四名）。お互いの自己紹介の後、研修部の活動について詳しい発表があり、活発な質疑応答の後、閉会となった。

《調布・狛江地区》：研修については、①地区全体②調布分区分③狛江分区分④三つに分かれている。①は、自主研修（年一回）、管外研修（年一回）、新任研修（人数がある程度まとまってから適宜実施）がある。③の自主研修では、二泊三日で北海道の網走刑務所見学も行われた。二年間の積み立てで費用を手当てし、十九名中十五名もの参加があったそうだ。《府中地区》：実務研修（前年度まで自主研修）が奇数月、年六回行われている。毎回主任官から府中地区の概況について報告があり、出席率も高い。今後も一層の充実をめざしている。

広報部長 大沢美保子

退任あいさつ



濱田 博

平成十二年五月保護司就任以来、府中地区保護司会の諸氏のご厚情に支えられ、在任十六年間に及ぶ保護司生活も、無事終止符を打つ事ができました。有難く、厚く御礼申し上げます。在任中、犯罪形態も様々であり、ほとんどの犯罪対象者と接触し対応したわけです。いろいろ勉強しながらも、良く務めたものだとつくづく思っております。そういう中で、無期懲役刑の対象者との出会いは、私の五年先輩（誕生日が同じ）という事で、一生付き合うことになったわけです。先年、亡くなられましたが、葬儀、骨上げ迄、お付き合いをさせて頂きました。薬事犯、ストーカー犯罪についても話したい事が多々あるのですが、紙面の都合上、割愛させて頂きます。

最後に、府中地区保護司会諸氏の益々の発展とご活躍を祈念して私の退任のご挨拶とさせて頂きます。十六年間のご厚情、本当に有難うございました。なお、府中地区保護司会のOB会(桐友会)には入会させて頂きたく思っております。

《多摩連ニュース》

多摩地区保護司会連絡協議会
平成二十八年度理事会開催

多摩地区保護司会連絡協議会（多摩連）は、多摩地区（二十六市・三町・一村）にある九つの地区保護司会で構成されています。本年五月十六日（月）、多摩連の理事会が東京保護観察所立川支部で開催され、各地区から理事約七十名が出席しました。

野崎重弥会長のもと、平成二十七年年度の事業報告・収支決算報告、二十八年度の事業計画、収支予算の審議・承認が行われ、新年度の活動がスタートしました。

今年度の事業内容変更点としては、
①例年行われていた多摩地区更生保護事業関係者顕彰式典・感謝状贈呈の廃止、
②多摩地区全保護司を対象に、保護司全体研修会を開催（平成二十九年二月十六日（木））があります。

多摩連の活動については、ホームページを「<http://www.bz-n.com/tamaren/>」をご覧ください。



その他の活動

四月

- 薬物乱用防止推進協議会 啓発活動及び総会

五月

- 関東医療少年院 コーラス交歓会

六月

- 特別研修第一回 「保護司会運営に関わる研修協議会」

- 府中市要保護児童対策

- 地域協議会

- 社会貢献活動 安立園

- 関東医療少年院 学習発表会

- 社会貢献活動 安立園

表紙の写真と
コラムを募集中!



府中地区保護司会コラム② 「ベストミックス」

広報部 内藤 治

《7,040日、8,825日》これらは、65歳男性、女性の各々が今後何日間生きるかを示す統計上の数値です。いわゆる「平均余命」と言われているもの。ちなみに、55歳男性で10,103日、55歳女性で12,147日で、女性の方が20%から25%長生きであり、世界で少子高齢化社会の先頭を行く日本では、女性の活躍がより期待されることになります。

バリバリの実業で活躍される方、スポーツ趣味など悠々自適の生活でお金を消費し日本経済の好循環に寄与される方、あるいは、ボランティアとして活動される方など十人十色。

保護司という立場のボランティア活動を通じて社会貢献されている皆さまへ、ここでプチ提言。65歳を想定した一万日に満たない期間を長いとみるか、短いとみるかは、人それぞれですが、実業、スポーツ趣味、ボランティアなど、将来に向けて各自のベストミックスのライフバランスはどうあるべきか、一日一日を大切にすべきと改めてこの機会に考えてみてはいかがでしょうか。

(平均余命の出典 厚生労働省の統計 平成27年7月30日付)

創立20周年記念特集 第3回

新任保護司アンケートと保護司歴20年の先輩からのコメント

府中地区保護司会が創立20周年を迎えるに当たり、広報紙「府中地区保護司会だより」の中で、20周年記念企画記事を掲載してきました。今回はその3回目で、新任保護司（平成27年9月～）4名の方に、保護司になってからの数か月を振り返って、ご感想など伺いました。

また、創立時（平成8年）に保護司の委嘱を受けた先輩の方2名にも、新任時代を思い起こして、今後の活動につながるアドバイスをいただきました。

アンケートの主な内容

- ・保護司になって困ったこと・不安に思えること
- ・保護司会活動へのご感想や先輩にききたいこと

先輩保護司からのコメント

- ◆ 当時同期は7人いたが、今は2人になって淋しい。先輩・後輩の関係も、規律が厳しく、大変だった。
- ◆ 対象者との面談では、連絡せずに来ない時は、必ず反省させ、それがよかった。保護司の仕事は長丁場なので、無理をせず、いい意味で「いい加減」をモットーにしていた。（須藤光忠）
- ◆ 新任のころ、対象者に振り回され、一歩下がり、ある程度距離をもつての対応ができなかった。保護者も十人十色で、面接時には緊張した思い出も多い。
- ◆ 仕事との両立を考えると、保護司会の活動・研修への参加は大変だと思う。20年前に比べると会の活動も活発になっている。長く続けてほしいボランティアなので、優先順位をつけて参加すればよいのでは。
- ◆ 同期で情報交換し、悩みも解消した。サポセン駐在を活用し、先輩保護司とざっくばらんに話してもらいたい。（高野佳子）

新任保護司からの回答

- * 困ったことや不安など
 - 対象者との距離感や対応がわからず難しい。対象者と連絡が取れない場合、ただ焦らず待つことを悟った。
 - 前任者から府中地区は、とても熱心と聞いていた。今のところ、特に心配はない。
 - 保護司活動のため仕事を休まないといけなことが多く、両立が課題です。年間20日の年休とフレックス制度を活用しながら、あらゆることにバランスよく取り組みたい。
 - * 感想など
 - 色々な活動があり、思っていた以上に忙しい。先輩方に色々な事例や対処の仕方など伺う機会がたくさんあるといい。
 - 保護司会の活動スケジュールなどわからず、困った。
 - 面談場所の問題や保護司活動に対する家族の理解と影響等知りたい。
- 注：文中敬称略。回答には、匿名希望も含まれます。

編集後記

今回の「保護司会だより」第三十九号は新任保護司からのアンケート結果を掲載しました。私も新任保護司ですが、これまで先輩の皆様が継続してきた活動を継承していくことの大切さと責任を感じています。また、保護司会活動を通じて皆さんと意見交換、情報交換をする場を大切にしたいです。

「保護司会だより」もそうした意見交換、情報交換をする場を提供できるよう広報部一同頑張っています。「保護司会だより」に関してご意見ご要望がありましたらご一報下さい。今後とも皆様のご協力をお願い致します。

市毛 彰

広報部

部長	大沢美保子	伊藤ゆきえ
副部長	堺美佐子	杉浦 渉
書記	伊藤 仁	内藤 治
会計	野口 良子	中込八重子
	赤塚 正坦	市毛 彰

題字は高野市長の揮毫によるものです